

令和5年度 (インクルーシブ教育実践研究校 A) 報告書 段原中学校

1 学校の課題

本校の自閉症・情緒障害特別支援学級在籍生徒の障害状況は、3割の生徒はADHD傾向の特性をもち、6割の生徒はASD傾向の特性が強い。

個々のこだわりがあり、相手の思いを汲み取ることが難しい。全体的に対人過敏が強い生徒が多い。担任以外の教職員との関わりが難しく、交流及び共同学習への参加が難しい状況にある。

本校自閉症・情緒障害特別支援学級在籍生徒の個別の指導計画を改めて見直してみると、右のような共通する課題が見られた。

課題要因等の違いはあるが、特に、「全体指示の理解が難しい」・「指示をすぐに忘れる」と言った課題がある生徒が半数以上を占め、非常に多い。

全体指示の理解が難しい・指示をすぐに忘れる
日記や作文等、言葉での表現が難しい
話し合いのある活動になかなか入れない
衝動的な言動が多い・相手の思いをイメージしにくい
整理整頓が難しい
書字に課題がある・ノートに書き写すのが遅い

これらの課題の背景には、ワーキングメモリの弱さが考えられる。しかし、これまで、生徒の実態把握の際にワーキングメモリの弱さについて詳細に分析したことがなく、また、これに対応した支援が十分ではなかった。

年度初めに、特別支援学級に関わる担任以外の教職員に、専任特別支援教育コーディネーターが事前の聞き取り調査を行ったところ、7名中のうち6名の教科担当教員は、「生徒の実態が分からない。」・「学年もまたがっている集団で、どのように授業を計画すればよいか分からない。」といった回答であった。授業を担当する教科担当者にとっても、「ワーキングメモリ」という視点を定めることで、実態把握や、実態把握に基づく授業の工夫がしやすくなるのではないかと考えた。

2 研究主題

特別な配慮を必要とする生徒が自ら学びに向かうことができる授業づくりの在り方と評価」(2年次)

3 取組内容

(1) 特別支援教育の視点

- ① 「ワーキングメモリ」に関する研修
- ② 「ワーキングメモリ」に関するチェックリストの活用

(2) 特別支援学級学級経営の視点

- ① 特別な配慮を必要とする生徒理解
- ② 自ら学びに向かうことができる課題設定

(3) ユニバーサルデザインの視点

- ① 『授業のユニバーサルデザイン(特別支援学級)』観点 チェックリストの作成
- ② 『授業のユニバーサルデザイン(特別支援学級)』観点 チェックリストの活用

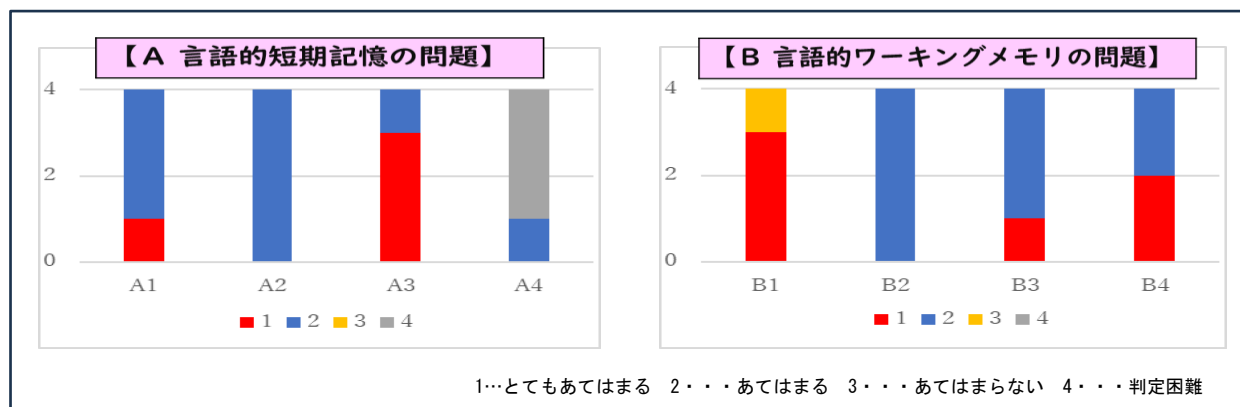
(1) 特別支援教育の視点

② 「ワーキングメモリ」に関するチェックリストの活用【別添資料① 参照】

- ・自閉症・情緒障害特別支援学級1 学年生徒4名を対象に「授業におけるワーキングメモリのチェックリスト」を実施。(7月上旬実施)
- ・実施者は、特別支援学級担任。

表1 「とてもあてはまる」、「あてはまる」生徒が多い項目について(本校の自閉症・情緒障害学級の場合)

「A 言語的短期記憶の問題」	【A1】 教師の指示をすぐに忘れる 【A2】 国語の時間、読みのミスが多い 【A3】 数学の時間、九九に苦手意識がある 【A4】 英語の時間、外国語の聞きなれない言葉をまねして繰り返すことが苦手
「B 言語性ワーキングメモリの問題」	【B1】 話し合いのある活動になかなか入らず、話についていけない 【B2】 作文や日記を書くことが苦手 【B3】 国語の時間、読解問題につまずく 【B4】 数学の時間、文章題につまずく
「C 視空間的短期記憶の問題」	【C1】 板書をノートに書き写すのが遅い 【C3】 数学の時間、三角形や四角形の性質について理解しにくい



ワーキングメモリに関する課題をもとに、具体的な支援を次のように考えた。

【A1】 教師の指示をすぐに忘れる	→	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を端的にする。 ・指示を行う教員を明確にする。(教員の立ち位置) ・指示が文字で残るようにする。
【A3】 数学の時間、九九に苦手意識がある	→	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップの活動を設定する。
【B4】 文章題につまずく (イメージをもって取り組めるようにする。)	→	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題の内容を日常生活の中の場面設定とする。 ・文章題の内容を具体物で示す。

図1 課題に対する支援の例

- 担任による「個別の指導計画」の作成において、客観的な視点で実態把握を行うことができた。
- 根拠のある実態把握ができ、手立ての検討にも活かすことができた。
- 集団としての課題も明らかにすることができた。
- 担任以外の教員にとっても把握しやすい視点を得られた。

(2) 特別支援学級学級経営の視点

- ① 特別な配慮を必要とする生徒理解
- ② 自ら学びに向かうことができる課題設定

表2 各教科担当教職員と専任特別支援教育コーディネーターとの連携例

主な連携内容	主な検討内容
【各生徒に関する連携】 ○授業中のつぶやきの共有 ○関わり方、接し方等の情報共有 ○教科の理解度や実態の情報共有 ○得意内容や理解できている内容、 理解できそうな内容等の共有 【集団に関する連携】 (特別支援学級担任への連携) ○教室内の座席配置について ○全体指導について	【各生徒に関する検討】 ○つぶやきの分析 ○関わり方、接し方等の検討 ○教科・単元の個別のねらいの検討 ○自ら学びに向かうことができる 内容設定についての検討 【集団に関する検討】 ○生徒同士が関わり合える 環境設定についての検討 ○教員の役割分担の検討

・授業後の振り返りアンケート(生徒)の結果

	できた	だいたいできた	あまり できなかった	できなかった
学習に進んで参加できた	2	1	0	0
問題文の中の情報を整理できた	1	2	0	0
文字等を使って式にすることができた	1	2	0	0

公開授業研究会では、参加者全員から「公開授業を通して気付きがあった」という高評価であった。中でも教科担当者との連携について、関心の高さがうかがえた。自由記述の一部を抜粋する。

・公開授業研究会事後アンケート(自由記述より)

・担任以外の教員が、これだけ支援学級の生徒に関わってくれているのか、と感じた。
 ・教科担当者との連携の持ち方、普段からどのような取組をされているのか気になった。
 ・通常の学級、特別支援学級ともに、ASD、ADHD の生徒が多く、生徒指導もたくさん起きるのですが、特別支援の要素がすごく絡むことが多いので、校内支援体制の確立に試行錯誤している最中なので、参考になった。

・本研究の取組の対象生徒の定期試験(数学科)の変容は以下のとおりである。

	生徒 A	生徒 B	生徒 C	生徒 D
後期中間試験	14	48	53	欠
後期期末試験	9	36	18	欠

- 担任以外の教職員の特別な配慮が必要な生徒の理解や特別支援教育に対する意識が高まった。
- 特別な配慮が必要な生徒の課題設定が深まり、個に応じた学習指導が実施できた。
- 特別支援学級の学級経営を見直し、効果的なチームティーチング(役割分担)の在り方を検討できた。

(3) ユニバーサルデザインの視点

- ① 『授業のユニバーサルデザイン(特別支援学級)』の観点 チェックリストの作成
- ② ・全校で取組む『授業のユニバーサルデザイン』の観点チェックリストの内容を特別支援学級での活用ができるよう検討し新たに作成した。【別添資料②参照】
 - 実際の特別支援学級での授業を想定したチェックリストを作成できた。
 - 特別な配慮が必要な生徒の実態にあったチェックリストを作成できた。
- ② 『授業のユニバーサルデザイン(特別支援学級)』の観点 チェックリストの活用
 - ・『授業のユニバーサルデザイン(特別支援学級)』の観点 チェックリストの内容を『学習指導案』の「学習過程」の内容に反映させた。
 - ・学習活動の中に『授業のユニバーサルデザイン(特別支援学級)』の観点を反映させた。

・『授業のユニバーサルデザイン(特別支援学級)』の観点を根拠に指導や教材等の目的を検討した。
 ・目的に合った具体的な指導や教材等を検討した。
 以下、一部を紹介する。【詳細は別添資料③参照】

学習活動 [㊦]	指導上の留意事項 (■予想される行動・実態・課題 ○支援 ☆評価) [㊦]			
	生徒 A [㊦]	生徒 B [㊦]	生徒 C [㊦]	生徒 D [㊦]
授業のユニバーサルデザイン [㊦]				
1. 授業開始の挨拶。(T2) [㊦]	○ 机上整理と授業準備の声かけ・確認を行う。 [㊦]	○ 机上整理と授業準備の声かけ・確認を行う。 [㊦]	○ 机上整理と授業準備の声かけ・確認を行う。 [㊦]	○ 机上整理と授業準備の声かけ・確認を行う。 [㊦]
A.基本的環境整備 [㊦]	○ 学習マナーや教室整備が意識されることで、いろいろな刺激物を減らし、安心して学習に取り組める雰囲気をつくる。 [㊦]			
2. ウォーミングアップ(T2) [㊦]				
① 数字を探せ [㊦]	■ 活動に参加できるまで時間がかかる。 [㊦] ○ 「ウォーミングアップがある」ことを個別に伝えてタイミングを意識させる声かけをする。 [㊦] ☆自分の席に戻ることができたか [㊦]	○ 活動のルールを理解し、活動に対する意欲を高めさせるために、電子黒板に注目させる声かけを行う。 [㊦] ☆集中して、意欲的に取り組むことができたか。 [㊦]	○ 活動のルールを理解し、活動に対する意欲を高めさせるために、電子黒板に注目させる声かけを行う。 [㊦] ☆集中して、意欲的に取り組むことができたか。 [㊦]	○ 活動のルールを理解し、活動に対する意欲を高めさせるために、電子黒板に注目させる声かけを行う。 [㊦]
A.基本的環境整備 [㊦]	○ 学習マナーや教室整備が意識できていることで、いろいろな刺激物を減らし、安心して学習に取り組める雰囲気をつくる。 [㊦]			
D.視覚化・聴覚化(2) [㊦]	○ 言語的短期記憶や言語性ワーキングメモリの問題への支援。安心して学習ができる雰囲気をつくる。 [㊦]			
3. 本時の活動を知る。(T1) [㊦]				
【今日のながれ】 [㊦]				
① みんなで考えよう [㊦]	■ 全体指示に対する意識がむきにくい。 [㊦] ○ T1に意識が向くように、座る姿勢等個別に声かけを行う。 [㊦]	○ T1に意識が向くように、座る姿勢等個別に声かけを行う。 [㊦]	○ T1に意識が向くように、座る姿勢等個別に声かけを行う。 [㊦]	○ T1に意識が向くように、座る姿勢等個別に声かけを行う。 [㊦]
② ひとりチャレンジ [㊦]				
③ 振り返り [㊦]				
B.授業づくり(2) [㊦]	○ 言語的短期記憶の問題への支援。見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 [㊦]			

- 授業計画を検討する中で、どの段階でユニバーサルデザインの観点が必要なのかを意識できた。
- ユニバーサルデザインの観点を根拠とした目的を意識し、授業の指導や教材等を検討できた。

5 研究成果

本研究の取組の結果、以下の3つの成果が挙げられる。

- ◎ 特別な配慮が必要な生徒への指導においては、ワーキングメモリの視点等のような、具体的視点を取り入れることが有効である。具体的視点を取り入れることにより、根拠のある実態把握が可能となる。更に、具体的な指導方法の検討にも有効である。
- ◎ 特別な配慮が必要な生徒の在籍している学級経営においては、専任特別支援教育コーディネーターが特別支援学級担任や各教科担当教職員との連携を図ることが非常に有効である。
- ◎ ユニバーサルデザインの視点においては、『授業のユニバーサルデザイン(特別支援学級)』の観点チェックリストの活用が有効である。

学習指導案と関連付けることで、ユニバーサルデザインの視点が授業のどの場面で必要になるかという意識が高まる。また、ユニバーサルデザインの観点を根拠とした指導や教材を検討することが可能になる。